

# 令和7年度 沖縄群島 病害虫発生予報 第2号（5月予報）

○向こう1か月の天候の見通し（令和2025年4月24日発表：沖縄気象台）

平均気温	降水量	日照時間
ほぼ平年並	ほぼ平年並	ほぼ平年並

○5月の発生予報（沖縄群島）

作物	病害虫名	調査結果	予報		予報の根拠
		4月の発生量 (平年比)	4月からの 増減	5月の発生量 (平年比)	
さとうきび	① メイチュウ類（カンシャシンクイハマキ・イネヨトウ）（株出し）	やや少	↗	並	平年の発生量の推移（↗）
（かんきつ）	① アブラムシ類	並	↗	並	平年の発生量の推移（↗）
（かんきつ）	① かいよう病	やや多	↗	並	平年の発生量の推移（↗）

※発生量は、ほ場調査の結果の平年値または例年値の同月比。

- 平年値：過去5～10年間の発生量の平均値
- 例年値：過去3～4年間の発生量の平均値

※（発生なし）は、今回の調査中に観察することができなかった病害虫。

※増減傾向は、発生量（現況）と比較した翌月の増減を予測している。



沖縄県病害虫防除技術センターのホームページにて、発生予報の詳細内容やその他情報を掲載しています。

○その他注意すべき病害虫（沖縄群島）

作物	病害虫名	発生状況及び防除事項
さとうきび	黒穂病	沖縄本島南部の一部ほ場で発生を確認している。防除は感染予防に重点をおいて行う。多発生ほ場は株出し栽培を控え更新する。新植栽培は発生ほ場や隣接ほ場からの採苗は控え種苗消毒を行ってから植え付ける。株出し栽培は胞子の飛散を防ぐために発病株は早めに抜き取り、袋に入れてほ場から持ち出して処分する。
マンゴー	炭疽病・軸腐病・すす点病	せん定枝や残さは伝染源となるので、施設外へ持ち出し処分する。

## 令和7年度 宮古群島 病害虫発生予報 第2号（5月予報）

○向こう1か月の天候の見通し（令和2025年4月24日発表：沖縄气象台）

平均気温	降水量	日照時間
ほぼ平年並	ほぼ平年並	ほぼ平年並

○5月の発生予報（宮古群島）

作物	病害虫名	調査結果	予報		予報の根拠
		4月の発生量 (平年比)	4月からの 増減	5月の発生量 (平年比)	
さとうきび	① メイチュウ類（カンシャシクイハマキ・イネヨトウ）（株出し）	並	→	並	平年の発生量の推移（→）
マンゴー	① ハダニ類	並	↘	並	平年の発生量の推移（↘）
ニガウリ （施設）	① うどんこ病	やや多	↘	並	平年の発生量の推移（↘）
	② 斑点病	並	↗	並	平年の発生量の推移（↗）
	③ ミナミキイロアザミウマ	並	↘	並	平年の発生量の推移（↘）
	④ タバココナジラミ	並	↘	並	平年の発生量の推移（↘）
（施設・ とうがん 立体栽培）	① うどんこ病	並	↗	並	平年の発生量の推移（↗）
	② ミナミキイロアザミウマ	やや多	↗	並	平年の発生量の推移（↗）
	③ タバココナジラミ	並	↗	並	平年の発生量の推移（↗）
	④ ハモグリバエ類	並	↗	並	平年の発生量の推移（↗）

※発生量は、ほ場調査の結果の平年値または例年値の同月比。

- 平年値：過去5～10年間の発生量の平均値
- 例年値：過去3～4年間の発生量の平均値

※（発生なし）は、今回の調査中に観察することができなかった病害虫。

※増減傾向は、発生量（現況）と比較した翌月の増減を予測している。



沖縄県病害虫防除技術センターのホームページにて、発生予報の詳細内容やその他情報を掲載しています。

○その他注意すべき病害虫（宮古群島）

作物	病害虫名	発生状況及び防除事項
さとうきび	黒穂病	胞子の飛散を防ぐために発病株は早めに抜き取り、袋に入れてほ場から持ち出して処分する。新植への感染を防ぐために発病ほ場やその隣接地からの採苗は控える。発病の多いほ場では株出し栽培をせず更新する。
マンゴー	炭疽病・軸腐病・すす点病	せん定枝や残さは伝染源となるので、施設外へ持ち出し処分する。
	チョウ目幼虫	新葉を食害するので、施設内を見回り、不要な新梢を取り除くか、早期発見・防除に努める。
	カイガラムシ類	一部施設でコナカイガラムシ類の発生がみられた。 甘露を排泄するカイガラムシ類は樹上のアリ類を探することで発見しやすくなる。 カイガラムシ類は、一般的に成虫の薬剤感受性が低いことから、幼虫に対して薬剤防除を行う。
（施設ウリ）	実腐病・黒かび病	一部施設で実腐病の発生が見られた。 実腐病は、うどんこ病の罹病葉などの衰弱した葉から朝露などを介して果実に感染する。黒かび病は罹病果実や花弁からの感染が知られる。いずれも梅雨時期など高温多湿時の発生が多く、輸送中に果実腐敗を引き起こす。罹病果実を圃場外に除去するとともにうどんこ病の防除に努め、摘葉やハウス管理により日当たり・通風をよくする。

## 令和7年度 八重山群島 病害虫発生予報 第2号（5月予報）

○向こう1か月の天候の見通し（令和2025年4月24日発表：沖縄気象台）

平均気温	降水量	日照時間
ほぼ平年並	ほぼ平年並	ほぼ平年並

○5月の発生予報（八重山群島）

作物	病害虫名	調査結果	予報		予報の根拠
		4月の発生量 (平年比)	4月からの 増減	5月の発生量 (平年比)	
（1 水 期 稲 ）	① 葉いもち病	並	↗	並	平年の発生量の推移（↗）
	②				
さ と う き び	① メイチュウ類（カン シャシクイハマキ・ イネヨトウ）（株出 し）	並	→	並	平年の発生量の推移（→）
	②				
マ ン ゴ ー	① チャノキイロアザミウ マ	並	→	並	平年の発生量の推移（→）
	② ハダニ類	並	↗	並	平年の発生量の推移（↗）
オ ク ラ	① うどんこ病	並	↘	並	平年の発生量の推移（↘）
	② アブラムシ類	並	→	並	平年の発生量の推移（→）
	③ フタテンミドリヒメヨ コバイ	並	↗	並	平年の発生量の推移（↗）

※発生量は、ほ場調査の結果の平年値または例年値の同月比。

- 平年値：過去5～10年間の発生量の平均値
- 例年値：過去3～4年間の発生量の平均値

※（発生なし）は、今回の調査中に観察することができなかった病害虫。

※増減傾向は、発生量（現況）と比較した翌月の増減を予測している。



沖縄県病害虫防除技術センターの  
ホームページにて、発生予報の詳細  
内容やその他情報を掲載しています。

○その他注意すべき病害虫（八重山群島）

作物	病害虫名	発生状況及び防除事項
水稲	斑点米カメムシ類	クモヘリカメムシ、ホソハリカメムシ、アカカメムシ、ミナミアオカメムシ等多くの種類が知られ、いずれも穂の吸汁加害により斑点米を生じ、米の品質を著しく低下させる。畔や水田周辺の雑草で越冬し、出穂後に水田に移動するため、出穂期までの定期的な除草により初期密度を低減する。但し出穂期前後の除草はカメムシ類が水田に移動するので極力控える。また薬剤防除は穂揃期とその7～10日後の2回実施を基本とする。
さとうきび	黒穂病	胞子の飛散を防ぐために発病株は早めに抜き取り、袋に入れてほ場から持ち出して処分する。新植への感染を防ぐために発病ほ場やその隣接地からの採苗は控える。発病の多いほ場では株出し栽培をせず更新する。
マンゴー	炭疽病・軸腐病・すす点病	複数の施設で軸腐病の発生が見られた。 せん定枝や残さは伝染源となるので、施設外へ持ち出し処分する。
	カイガラムシ類	一部施設でコナカイガラムシ類の発生が見られた。 甘露を排泄するカイガラムシ類は、樹上のアリ類を探することで発見しやすくなる。カイガラムシ類は、一般的に成虫の薬剤感受性が低いことから、幼虫に対して薬剤防除を行う。
（施設ウリ）	実腐病・黒かび病	実腐病はうどんこ病の罹病葉などの衰弱した葉から朝露などを介して果実に感染する。黒かび病は罹病果実や花弁からの感染が知られる。いずれも梅雨時期など高温多湿時の発生が多く、輸送中に果実腐敗を引き起こす。罹病果実を圃場外に除去するとともにうどんこ病の防除に努め、摘葉やハウス管理により日当たり・通風をよくする。
オクラ	オオタバコガ	多くの作物を加害し、オクラでは花蕾・花・果実・茎・葉を加害する。八重山地域では5～8月頃の発生が多い。移動と食害を繰り返すため、発生量が少なくても大きな被害をもたらす。齢期が進むほど薬剤感受性が低下し、果実や花蕾内への食入が増えるので、若齢幼虫のうちに同系統薬剤の連用を避けて薬剤防除を行う。
	カタツムリ類	主に葉を、多発生した場合は茎、花蕾、果実を食害することもある。定植前または作物にかからないようにほ場周辺に登録農薬を処理し、密度を低減する。茎葉上に移動した場合は捕殺する。圃場内外の排水対策を行い、雑草等の除去に努める。